

平成29年 2月 9日 (木) 公開授業 I  
 平成29年 2月10日 (金) 公開授業 II  
 会 場 2階-L (小学校音楽室)  
 授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校  
 教諭 佐藤 史人

## 1 題材名 1年間の思い出を音楽に — 和音の音で音楽づくり —

### 2 本題材の価値

本題材は、学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容A表現(3)の内容を受けて設定した。

#### A表現(3) 音楽づくり

イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

〔共通事項〕ア(ア) 音色、旋律、速度、音の重なりや和声の響き

(イ) 反復、変化

本題材では、体験や思い出等の具体的なイメージと音楽表現とを関連付けて、自分のイメージに合う音楽をつくる。具体的には、「運動会の思い出を表すために、力強くスピード感のあるリズムを表現しよう」等、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力を発揮して、イメージに合う音楽をつくる姿である。

子どもは、グループで思い出を表現した音楽をつくり、5年1組の1年間の思い出を表現していく。イメージをより具体的にもたせるために、作文で表した思い出の一場面を音楽のテーマとして設定する。子どもは、**自己のイメージと音楽表現とを関連付けて考える**という「見方・考え方を働かせて、自分なりの考えをもって、伝えたい場面のイメージに合う音楽表現を見いだす力を発揮することができ

る。音楽表現を工夫する手だてとして、タブレット端末の音楽制作支援アプリを活用する。また、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすいモデル曲の提示を行う。音楽制作支援アプリを活用することで、子どもは、イメージに合う和音進行を考えて音楽の全体像をつかむことができる。そして、和声の響きや構成音を手掛かりに、旋律等各パートの表現を考えることができる。また、モデル曲を提示することで、子どもは、音楽を形づくっている要素を聴き取り、その働きやよさを感じ取りながら音楽表現を工夫して、イメージに合う音楽をつくることができる。

### 3 本題材で目指す姿

**体験や思い出と音楽表現とを関連付けて、自分のイメージに合う音楽をつくる子ども**

具体的には、1年間の思い出を表現する音楽をつくる活動を通して、体験や思い出等の具体的なイメージと音楽表現とを関連付けて考えながら、「運動会の思い出を表すために、力強くスピード感のあるリズムを表現しよう」等、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力を発揮して、イメージに合う音楽をつくる姿。

### 4 本題材で育成する資質・能力

| ①知識・技能   | ②思考力・判断力・表現力  | ③態度   |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○音符、休符、記号や音楽にかかわる用語の意味や働きについて音楽活動を通じた理解</li> <li>○思いや意図などを音楽で表現するための技能</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら、伝えたい場面のイメージに合う音楽表現を見いだす力</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○創造的に音楽にかかわり、1年間の思い出を表現する音楽をつくる活動への意欲を高め、音楽経験を生かして、自分のイメージに合う音楽をつくらうとする態度</li> </ul> |

### 5 指導の構想

子どもは、他教科や学校行事等で体験したことを、思い出作文として文章にまとめている。また、学年末には「私たちの思い出発表会」も計画している。1年間の思い出を印象的で素敵な発表にするために、体験や思い出等のイメージに合った音楽をつくって発表する学習活動に取り組んでいく。

子どもは、これまでの音楽づくりの学習で得た知識・技能を基に、楽器やタブレット端末の音楽制作支援アプリを使って**(ツール活用能力)**、グループごとに音楽をつくり始める**(①知識・技能)**。

この段階で子どもは、グループのテーマに合わせて音楽をある程度つくり上げ、つくった音楽に満足する。しかし、1年間の思い出を表現する音楽は、4グループの音楽がまとまって演奏されてこそ完成が高いものとなる。子どもは、そのことにまだ意識が向いていない。そこで、「5年1組の1年間の思い出を表現する」ことを改めて提案する。子どもは、4グループの音楽を続けて演奏しようと考え、演奏する。しかし、グループの曲と曲とのつながりがスムーズにいかず、

「グループの曲と曲のつながりをよりスムーズにするにはどうするとよいだろうか」という学習課題を設定する。新たな学習課題を設定した子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け1

**曲と曲とのつながりをスムーズに表現している音楽のモデルを提示し、感想を問う。**

学習課題を解決する視点として、音楽を形づくっている要素とその働きに着目させるための働き掛けである。

参考曲として、要素の働きを感じ取りやすい教師作の「参考曲〇〇〇」を提示する。ここで気付かせたい音楽を形づくっている要素とは、曲中に何度も出てくるつなぐ旋律の反復である。参考曲を聴いた感想を問うと、子どもは、**音楽を形づくっている要素（つなぐ旋律の反復）とその働きに着目し**、「曲と曲との間に、同じメロディー（つなぐ旋律）が何度も出てくる」「つなぐ旋律が曲全体をスムーズにつなげていて、まとまりのある感じがする」など気付いたことを交流し、「つなぐ旋律をつくって、グループの音楽をつなげたい」(③態度)と、課題解決の見通しをもつ。課題解決の見通しをもった子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け2

**楽器とツールを提示し、音楽づくりに必要なものを選択させる。**

楽器やツールを使って、見通しをもって音楽づくりさせるための働き掛けである。

つなぐ旋律をつくろうと考えた子どもに、楽器と音楽づくりに有用性を感じているツール（五線譜シート、タブレット端末の音楽制作支援アプリ）を提示する。子どもは、つなぐ旋律を全員でつくるために、スピーカーにつないだ音楽制作支援アプリを使って、つなぐ旋律の和音進行を全員で考えようとする。そこで、全体の前で音楽制作支援アプリを操作したり、みんなの意見をまとめたりする子どもを指名する。指名された子どもは、アプリを操作し、みんなの意見をまとめながら和音進行を提案する。和音演奏を聴いた子どもは、**自己の5年1組のイメージと和声の響きとを関連付けて考え**、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力(②思考力・判断力・表現力)を発揮し、つなぐ旋律の和音進行を考える。決まった和音進行を板書し、その後の音楽づくりの手順を確認する。子どもは、これまでの学習で得た知識・技能を基に、旋律パート等を相談しながらつくる(①知識・技能, ②思考力・判断力・表現力)。ある程度音楽をつくり上げた子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け3

**つなぐ旋律を生かして作品の中間発表会を設定し、発表した感想を問う。**

音楽をよりよくしたいと感じさせるための働き掛けである。

演奏交代の流れを確認し、「つなぐ旋律を生かして曲と曲をつないだ作品の中間発表会」を設定する。つなぐ旋律を生かして中間発表をした子どもに、感じたことを問う。子どもは、上手く表現できたことやできなかったことを交流しながら、**自己のイメージと音楽とを関連付けて考え**、「最後はもっと音楽が終わった感じにしたい」などと新たに工夫すべき点に気付く。新たな工夫点に気付いた子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け4

**要素の働きを感じ取りやすい参考曲を提示し、気付いたことを問う。**

音楽表現を工夫する視点として、音楽を形づくっている要素とその働きに着目させるための働き掛けである。

まず、参考曲として、先に提示したモデル曲の最後の部分（まだ子どもは聴いていない部分）を提示する。つなぐ旋律が反復され、最後は大きな音で音を伸ばすように演奏が変化している部分である。ここで気付かせたい音楽を形づくっている要素とは、反復、音の重なり、変化である。

次に、モデル曲の最後の部分を聴いて気付いたことを問う。子どもは、**音楽を形づくっている要素とその働きに着目し**、「つなぐ旋律が反復している」「最後は音がのびて終わりの感じがする」などと、気付いたことを共有する。子どもは、「最後はつなぐ旋律を反復して、音を伸ばして終わる感じに変化させよう」等、課題解決の見通しをもち、再び音楽づくりに取り組む。

子どもは、自分のイメージと、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら表現を工夫することとを関連付けて、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力(②思考力・判断力・表現力)を発揮し、音楽をつくる(①知識・技能)。また、相談しながら音楽制作支援アプリを使って表現を工夫したり、五線譜シートに記録したりする(協働性, ツール活用能力)。

#### 働き掛け5

**発表会を設定し、作品の特徴を振り返りシートに記述させる。**

音楽づくりで発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

まず、音楽を完成させて発表会を設定する。子どもは、伝えたいイメージを音楽で表現しながら、「5年1組の1年間の思い出」を発表することができる(音楽①)。

一連の学習を通して、子どもは、**体験や思い出と音楽表現とを関連付けて、自分のイメージに合う音楽をつくり上げる**。

次に、振り返りシートに作品の特徴を記述させる。子どもは、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力を発揮したことで、自分のイメージに合う音楽をつくったことを自覚する。

6 指導計画 全6時間 (18Q)

別紙「単元カード」参照

7 本時の構想<第1日目> 4/6時間 (45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 4/6時間目)

音楽を形づくっている要素とその働きに着目する、自己のイメージと音楽とを関連付けて考えるという「見方・考え方」を働かせて、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力(思考力・判断力・表現力)を発揮し、和音の響きを感じ取りながらつなぐ旋律をつくることができる。

(2) 展開

| 学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ   | 教師の働き掛け  |
|---|--|
| <p><b>1 前時の学習課題を確認する。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>グループのテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「永遠のMy friends」</li> <li>「楽しいな休み時間」</li> <li>「佐渡自然体験教室」</li> <li>・ 「色々な気持ちの運動会」</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春夏秋冬に当てはめると、新しいクラス、運動会、佐渡自然体験教室、休み時間かな。</li> <li>・ グループの音楽をつなげて演奏してみよう。</li> <li>・ グループの演奏は上手にできたけれど、曲と曲とのつながりがスムーズにいかなくて困りました。</li> <li>・ 「1年間の思い出」が連続で流れるようにしたいです。</li> </ul> <p>・ 曲と曲との間にも演奏したらどうかな。</p> | <p>※事前に学習カードを配付する。</p> <p>○説明 「グループの音楽ができましたね。そして、『5年1組の1年間の思い出』を音楽で表現しようと考えた時に、グループの音楽を春夏秋冬のようにつなげようという考えが多かったです。</p> <p>○指示 「実際につなげて演奏してみましょう」</p> <p>※演奏順を確認する。</p> <p>○発問 「実際に演奏してみてどうでしたか」</p> <p>○学習課題を確認し、板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>グループの曲をスムーズにつなげるにはどうするとよいだろうか。</p> </div> <p>○発問 「どうするとよいか、考えがある人はいますか」</p> |
| <p><b>2 音楽を形づくっている要素とその働きに着目し、音楽表現を工夫する見通しもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲と曲との間に、同じメロディーが出てくるね。</li> <li>・ 同じメロディーが曲と曲との間に演奏されていました。</li> <li>・ リコーダーだけで優しい感じでした。</li> <li>・ 音楽全体がつながって、まとまりのある感じがしました。</li> <li>・ だったら、私たちもつなぐ旋律を考えて、グループの曲と曲をつなげるといいかもしれないよ。</li> <li>・ つなぐ旋律をつくりたいです。★音楽科③</li> </ul>  | <p>○曲と曲のつながりをスムーズに表現している音楽のモデルを提示し、感想を問う。【働き掛け1】</p> <p>○説明 「参考になりそうな音楽のモデルを用意しました。曲と曲とをスムーズにつないでいきます。聴いてください」</p> <p>※音楽のモデルを再生する。</p> <p>※感じたことを学習カードにメモさせる。</p> <p>○発問 「音楽のモデルを聴いて、感じたことはありますか」</p> <p>※補助発問 「どんな演奏(音)でしたか」</p> <p>○説明 「何度も出てきた同じメロディーのこたを、つなぐ旋律と呼ぶことにしましょう」</p> <p>○発問 「つなぐ旋律があれば…、ということのようですが、つなぐ旋律はまだありませんね。どうしたいですか」</p>                                |
| <p><b>3 楽器やツールを使って音楽をつくる見通しをもつ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ つなぐ旋律をみんなで作ろう。</li> </ul> <p>・ タブレット端末の音楽制作支援アプリを使いたいです。</p> <p>・ つなぐ旋律の和音進行を考えたいからです。</p> <p>・ 和音で曲の雰囲気をつかみます。</p>  | <p>○楽器とツールを提示し、音楽づくりに必要なものを選択させる。【働き掛け2】</p> <p>○指示 「それでは、つなぐ旋律をつくりましょう」</p> <p>○発問 「ここに、皆さんが使っている楽器、五線譜シート、タブレット端末の音楽制作支援アプリがあります。つなぐ旋律をつくるために、まずは何を使いますか」</p> <p>※補助発問 「なぜアプリを使うのですか」</p> <p>※補助発問 「なぜ和音進行を考えるのかな」</p>   |
| <p><b>4 自己の5年1組のイメージと和声の響きとを関連付けて考え、つなぐ旋律をつくる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年1組の思い出をつなぐんだから、5年</li> </ul>  | <p>○発問 「どんなイメージで、つなぐ旋律をつ</p>   |

1組の明るいイメージじゃないかな。

- <和音進行を考える>
- ・始めの和音はどうしますか。
  - ・はじめはCがいいね。次はEmはどう？
  - ・C～Emはなんか苦しい感じがする。
  - ・それなら、Cの次はFは感じがいいかな。
  - ・C～Fだと盛り上がる感じがする。5年1組の明るい感じに合っているからです。
  - ・次はF～Gかな。さらに盛り上がるよ。
  - ・最後はCだ。「みんな力合わせてやり遂げたぞ」みたいな気がする。
  - ・5年1組のイメージに合う和音進行ができたね。

- <旋律を考える>
- ・和音進行の次は他のパートの演奏を考えよう。
  - ・リズムパートや旋律パート、低音パートなど。
  - ・音楽のモデルは、音が少なくてシンプルだったよ。
  - ・そうか。多くのパート演奏にすると、またつながりが大変になるかもしれない。
  - ・モデルのつなぐ旋律はリコーダーだった。
  - ・リコーダーで和音も聞こえたよ。
  - ・わかった。ドラムセットなどいろいろな楽器を使うと大変だから、モデルみたいにリコーダーだけでつくればいいんじゃないの。

- ・和音進行を基に鍵盤ハーモニカやリコーダーでえんそうする。  
♪ラーラーラー  
♪ラーララーララー。
- ・僕はこんな旋律を考えました。  
(和音進行に合わせながら)  
♪ラーララーララー。
- ・ララーと細かく音が上がっていく感じが、クラスの楽しい雰囲気を伝えている感じがします。
- ・私はこんな旋律を考えました。♪ラーラー
- ・2つの旋律を合体してみたらどうかな。
- ・和音進行を繰り返して、今の2つの旋律を続けてみたらどうかなと話しました。
- ・実際にえんそうしてみよう。
- ・いいね。明るい感じがふくらんだね。
- ・和音の音も重なって入るといいかもね。
- ・つくったつなぐ旋律を演奏しよう。  
**★ツール活用能力**  
**★協働性**  
**★音楽科①②**
- ・つなぐ旋律が完成したね。
- ・思い出の曲と曲とを実際につぐといいかもね。

くるのですか」

※全体の前で音楽制作支援アプリを操作したり、みんなの意見をまとめたりする子どもを指名する。

※補助発問「なぜFがいいと思ったのかな」

※決まった和音進行を板書する。  
例：C-F-G-C

○発問「和音進行ができましたね。次は何を考えますか」

○発問「和音進行を基に他のパートをつくるのですね。でも、例えばリズムはドラムセット、低音パートはバスドラムなど多くの楽器を選択すると、結局つなぐ旋律の演奏のために移動や準備が大変になりませんか。本当にそれでいいのですか」

※必要に応じて音楽のモデルを再生する。  
※必要に応じて学習カードにメモさせる。  
○指示「なるほど。つなぐ旋律はグループの入れ替えが準備の間、待っている楽器がいいかもしれませんね」

○指示「では、C-F-G-Cのコード進行を演奏しますので、旋律を思い浮かべてみましょう。楽器で演奏してもいいですよ」

※和音進行C-F-G-Cを再生する。  
○発問「それでは、浮かんだ旋律を発表してくれませんか」

※和音進行C-F-G-Cを再生する。  
※複数の意見を取り上げ、旋律を板書する。

○発問「今の旋律の発表を聴いて感想はありますか」

※補助発問「ほかに発表してくれる人はいますか」「感想はありますか」

○指示「なるほど、合体するという考えもありますね。つなぐ旋律について近くの人と相談しましょう。鍵盤ハーモニカで演奏しながら相談してもいいですよ」

○発問「相談してどんな考えになりましたか」

○指示「なるほど、2つの旋律を続けるという考えが皆さん賛成なんだね。では、実際にリコーダーで演奏してみよう」

※リコーダーの奏法や運指を確認し、練習させる。

※様子を見て、実際に曲と曲をつなぐ演奏にも挑戦させる。

○まとめを板書する

5年1組のイメージに合う和音進行でつくった旋律でつなぐとよい。

○指示「今日考えたことや明日のめあてを学習カードに書きましょう」

(3) 評価  
音楽を形づくっている要素とその働きに着目する、自己のイメージと音楽とを関連付けて考えるという「見方・考え方」を働かせ、想定した資質・能力を発揮してつなぐ旋律をつくることのできたかどうかを、学習カードの記述や発言から判断する。